

# 支援物資セット化マニュアル

—被災者とモノを通じてココロを通わせる方法—

はじめに

第一章 セット作業の考え方

第二章 支援物資セット化を計画する

第三章 セット作業を準備する

第四章 セット作業に取り掛かる

第五章 後かたづけも忘れずに

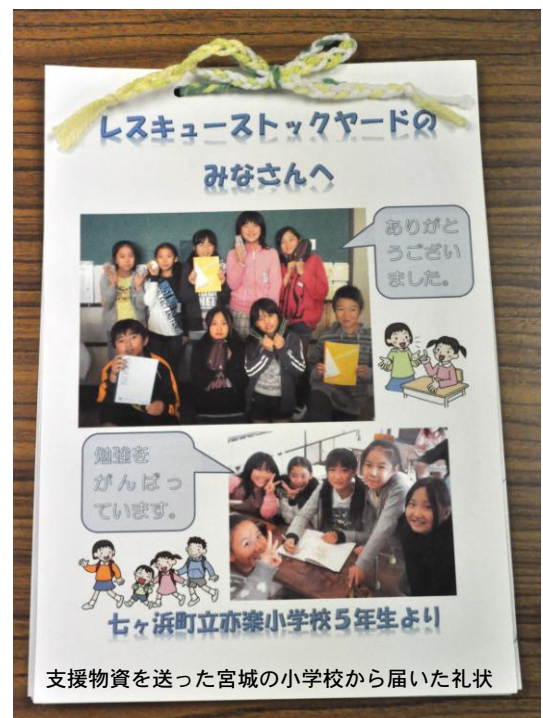
第六章 支援物資を発送する

第七章 セット化が難しい場合の工夫

第八章 個別ニーズに対応した物資の支援

おわりに

巻末資料



特定非営利活動法人レスキューーストックヤード

<http://rsy-nagoya.com/>



このマニュアル作成事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

<http://ringring-keirin.jp>

# はじめに

東日本大震災では、多くの方々が一瞬にしてわが家を失い、避難所に身を寄せました。インフラや物流、情報網も寸断され、あすの食料も手に入れない不安な日々を過ごしました。豊かだと思っていた現代の日本社会でも、容赦ない自然の猛威が襲いかかれば誰でもこうした状況に陥ります。

大量の支援物資が全国から被災地に送られました。しかし、物資の種類や数量、梱包状態がバラバラなままでは、現地での仕分け作業に膨大な時間や手間がとられます。これらは阪神・淡路大震災以降、ずっと指摘されていた弊害です。

善意を生かす有効な手段の一つ。それが物資をできるだけ事前にまとめて発送するセット化（パック化）の作業です。



（写真1）震災発生から1週間後、宮城県の被災地に届いた支援物資を仕分けするボランティアら

このマニュアルは、われわれレスキューストックヤード（以下RSY）が多くのボランティアや企業の協力を得ておこなったセット化作業（うるうるパック＝巻末資料1＝など）の経験を基にまとめました。

われわれが大事にしているのは、物資を大量に効率的に送り届けるだけでなく、それが被災者と支援者のコミュニケーションの手段となり、長期的な心の支援につながっていくことです。

被災者を思って一つ一つの物を丁寧に扱い、一人一人に心を込めて送り届ける。そのためには、あるていどの事前準備や段取り、心構えが必要です。また、いかにボランティア活動とはいえ、作業者の安全確保や作業場所の環境保全も考えなければなりません。そのための基本的な注意事項なども盛り込んでいます。

災害の形もまた多様で、この通りにやればよいという完全なマニュアルではありません。それでも、被災地を支援したいという方がなにかしかの参考にして、よりよい支援活動につなげてくださることを願っています。

# セット作業の流れ

## 1. 支援物資セット化を計画する (第二章)

早く被災者に届けたいという気持ちは大切ですが必要な時に必要な物が届くよう事前に計画をきちんと立てましょう。



## 2. セット作業を準備する (第三章)

多くの物資を送る場合その物資を送る作業にもボランティアの参加は不可欠です。応援してくれるボランティアがケガをしないようにまた被災者に間違った物が届かないよう準備(段取り)をきちんとしましょう。



## 3. セット作業に取り掛かる (第四章)

安全に間違いなく。



## 4. 後かたづけも忘れずに (第五章)

場所を提供してくれた人・会社・学校に迷惑をかけないように最後の最後まできちんと作業をします。



## 5. 支援物資を発送する (第六章)

被災地周辺の事情や届け先の状況がわからないのが通常です。被災していない自分達の周辺の道路事情等を勝手に想像すると届かないこともあります。また支援物資の目的を良く理解しどのように輸送したらコミュニケーション活動と連動するか考えます。



## 6. セット化が難しい場合の工夫 (第七章)

提供された物は使い切る工夫をしましょう。

# 第一章 セット作業の考え方

---

## 1. 対象とする支援物資

---

必要な物資は時間とともに変わることが多くの人には知っています。問題は変化するニーズに具体的にどのように対応するかということです。マズローの欲求5段階説（巻末資料2）を参考に支援物資の扱いを次のような5段階に分けて考えました。

**第一段階** 食糧・水など生活（生存）に必要な最低限の物資で行政が手配し避難所で配る。

**第二段階** 第一段階の物資が確保された状態で、避難所で生活する人が等しく求める物資であるが、一歩進んで主体的に生活をしていくに必要な物資。

**第三段階** 仮設住宅などに移動し日常生活を開始するに当たり、必要となる多くの人に共通な基本的な生活物資。

**第四段階** 個人的な生活を取り戻した段階で求められる物資。個人個人で求める物が違ってくる。

**第五段階** 自らの労働で得たお金で生活の質を高める物を購入する。

このマニュアルでは第二、第三段階での支援物資を想定しています。また、同じような物を多くの人に提供する場合を想定しています。季節・災害の状況により異なり、冬であれば必要だが夏ならば必要ないという物もあります。



（写真2）仮設住宅入居後の被災者を対象に開いたフリーマーケット

## 2. マニュアル作成の目的

ある程度まとまった数量の支援物資セットを作る場合、準備段階から物資の取り扱いに関する知識や経験が必要になります。しかし、いつもそのような専門知識を有する人が参加できるとは限りません。そこで、そのような専門知識を有する人がいない場合でも作業に困ることがないように、RSYの支援物資のセット作業の経験をもとに大学の研究者や物流の専門家が参加してマニュアルを作成しました。

## 3. 物資支援に取り組む上での諸注意点

### ① 安全に作業が行えるようにする

物資は多くの場合、ボランティアによって運搬されます。その場合、例えば物資が重過ぎると腰痛を引き起こすことに繋がります。10kg までを目安にして梱包を考えることが重要です。

### ② 被災地では配るだけの状態にまで物資のセット作業ができるようにする

被災地は人手が不足した状況になっています。届いた支援物資の処理に更に人手を要することは、それだけ復旧を遅らせることにつながります。例えばAという避難所に105人がおり、ダンボール1箱に10人分のセット化した物資が入る場合、10人分の箱を10箱と5人分の箱を1箱つくります。決してこの5人分が別の避難所の人の箱と一緒にあってはいけません。

### ③ 正確な作業を行えるようにする

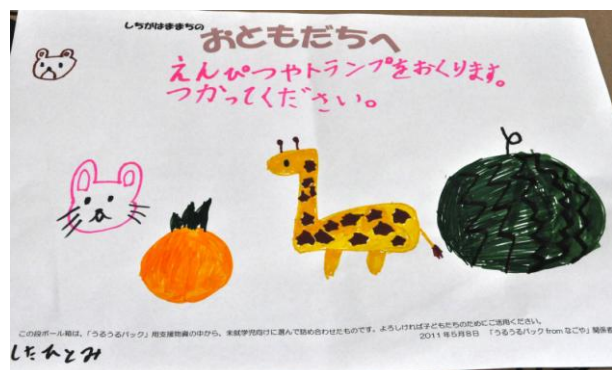
2000人分の物資をセット化する場合、1セットの間違いは1/2000ですが、セットを受け取る人にとっては1/1です。たかが1セットと思っははいけません。間違い（過不足、入れ違い）がないことを確認しながら作業を進めることが基本になります。

### ④ 作業が途切れることがないよう手順を考える

参加してくれたボランティアにとって、作業できないという状態は予想外であると同時にイライラするものです。セット作業は準備作業と本作業に分けて計画するとともに、準備作業（段取り）に十分な時間をかけることが本作業のスムーズな流れにつながり、また作業の間違いを防ぐことにもなります。本作業が混乱し、ボランティアから「あんな作業はもうこりごり…」と言われないように。

### ⑤ コミュニケーションを大切に

被災者とのコミュニケーションを少しでもはかるためメッセージカードなども入れましょう。



(写真3) 名古屋の子どもたちが宮城・七ヶ浜の子どもたち向けに書いたメッセージ

## 第二章 支援物資セット化を計画する

セット作業を実行する場合、どのような順序で進めればセット作業をスムーズに行えるか、また被災地や被災者に届けられるか、順を追って説明します。

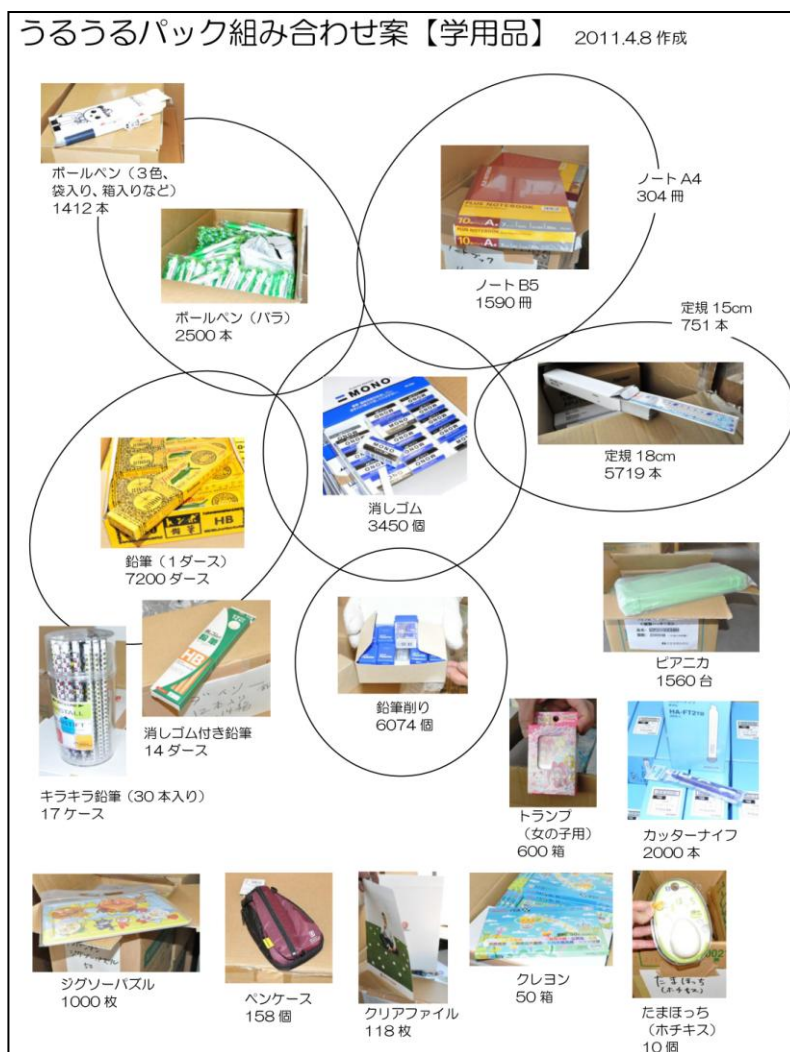
早く被災地に届けたいと急ぐあまり、事前の準備もなくセット化を始めると、むしろ時間がかかったり混乱したりし、届けられなくなる心配があります。

### 1. 支援物資を決める

どのような物を支援物資として構成するかを考えます。

支援物資を届ける時期を決め、被災者のニーズを明確にします（マッチング作業）。

計画にもとづき支援物資の入手（調達）～保管～作業用品の調達～セット化～発送～配布及び作業終了後の撤収作業までの流れにそって、計画を具体的にします



(図1) 学用品の組み合わせ例

---

## 2. 物資提供を依頼する

---

被災者のニーズがまだ個別化せず、同じ物を相当数の被災者が必要としている段階（第二、第三段階）は同じ物をまとめた数量で調達（入手）する必要があります。また、セット作業にはその作業場所が必要であり、作業をスムーズに進めるための機器（作業台や台車からフォークリフトまで）も必要になります。特に扱う数量が多い場合、そのための場所や機器が必須となります。物の提供とともに、これらのサービスの調達も可能な範囲で協力してもらうことを依頼するのもよいです。その場合、扱う機器（例えばフォークリフト）によっては免許を必要とすることがあります。ボランティアとして機器を操作してくれる社員の参加も同時にお願いすることができればなおよいです。

---

## 3. 資金の手当てをする

---

物資の提供を受けただけではセット化作業はできません。支援物資を梱包するためのダンボールやテープ留めのためのクラフトテープ、布テープが必要になります。それらの消耗備品の購入費用や、支援物資を現地に届けるための輸送費用が必要になることもあります。さらに作業終了後に不要となった物を処理するための費用（運搬費用指定のゴミ袋購入費）が必要です。提供された物資だけでは不足するときは、不足分を購入することもあります。それらの費用をどのように確保するかは重要な課題です。

① 物資の提供を受ける時、必要な資金の提供も提供者に依頼します。

**事例** 神戸の「被災地NGO協働センター」はタオルの提供を受けるとき、タオル1本につき10円の資金をもらうようにしています。

② 街頭でこれらに必要な支援金を募ります。

③ 物資の提供を受けるに当たり、その一部をフリーマーケットで現金化することを事前に了解してもらいます。

④ これらの資金を提供してくれる団体を探し、場合によっては支援助成に応募します。

⑤ 資金について相談に乗ってくれる、いわゆるNPO中間支援組織もあります。

---

## 4. 作業場所を確保する

---

計画している作業に合わせ、十分に広い場所を確保します。適切な場所の確保できない状態での作業はボランティアの事故やセットした物資の間違いにつながります。公共施設は作業に適していないこともあります。無償で貸してくれる場合があります。作業場所のみならず、物資の保管場所（セット作業前の物、作業に必要なダンボールなどの梱包資材を置く場所、完成した物資の一時保管場所、不要となったダンボールなどを一時保管する場所など）も必要です。場所の選定に際しては次のことも考慮すべきです。

- ① 作業に参加してくれるボランティアの利便性を考慮して公共交通機関や駐車場が用意されている。
- ② 運搬車両の出入りに問題がない。
- ③ ボランティアが弁当などを入手できる店が近くにある。
- ④ トイレや手洗いなどがある。

**事例** R S Yは 2011 年 5 月の作業において名古屋大学の施設を提供してもらいました。



(写真 4) 名古屋大学環境総合館 1 階ホールでの作業

---

## 5. 計画に沿って作業を支援してくれるボランティアを募集する

---

被災地までは足を運ぶことが難しいというボランティアに機会を提供するという意味もあります。



## 第三章 セット作業を準備する

---

### 1. 物資提供者からの情報の入手と整理

---

支援物資のセット化計画を提示し、どのような物資の提供を求めるのかを決めます。そして提供してくれる企業が明確になったら、その企業から提供物資の具体的な情報をもらうことになります。

物資情報を受け取る時、あらかじめエクセルなどで様式を定めた表を作成し、表に入力された形でデータを受け取ることで、その後作業が正確になります。どのような情報が事前に必要かは**巻末資料3**で詳しく説明します。

ここでは簡単な例を使って説明します。

例えば、シャンプーを2000本提供してくれる会社があったとします。

シャンプーにもいろいろな種類があります。1本のシャンプーの容量やダンボールには、シャンプーが何本入っているのか、そのダンボールの寸法はどれくらいなのかがわからないと、2000本のシャンプーを一時保管するのにどのくらいの場所（面積）が必要かわかりません。シャンプー以外に送ってもらえる物資についても同様です。それがわからないと、作業する場所をどのくらい確保するかがわからなくなります。

また、靴の提供を受ける場合、サイズ別、男女別などが重要な情報となります。事前に情報がないと受け入れ場所をどの程度確保するべきかがわかりません。

企業からの提供数だけでは不足する場合、不足物資を購入することになります。物資を購入する場合、できるだけ被災地の企業から購入するべきです。被災地の企業は商工会議所などに卸商の紹介を依頼するとよいでしょう。卸商（問屋）は幅広く調達する力がありますし、商品について気が付かないことを教えてくれます。

---

### 2. 物資提供者への諸連絡

---

セット作業の予定に合わせて提供物資を送ってもらうため、荷受け場所や日時を提供企業に連絡します。物資の受け取りは作業前日の準備作業中にするとよいでしょう。

---

### 3. 包装資材（梱包用ダンボール等）の調達

---

物資を渡す場合の包装形態と、物資を輸送する場合の包装形態を計算します。物資を渡す場合は一人が楽に持てる大きさにし、また重量は10kgぐらいを上限に考えます。物資を輸送する場合の包装形態は、セット化した物資を何セットで一箱にするか（入数）ということを経営計算します。その場合、一箱に入れる数はなるべく計算が簡単な5の倍数が良いでしょう。ただし、一方で人が持てる重量として、10kgぐらいを上限にして入数を決めます。

このようにして必要なダンボールとその数が決まったら、作業前日までは届くように手配します。ダンボールの購入はホームセンターもしくは文房具などの通販のサイトから購入できます。これらの置き場確保も忘れないようにして下さい。



(写真5) セット化作業で使用した梱包用段ボール箱

---

#### 4. 作業に必要な備品の確認と用意

---

作業道具がそろっていないと作業がはかどりません。また、ケガのもとです。例えば不要になったダンボールを片付けるとき、カッターナイフが一本あるかないかで作業スピードが全然違います。

また、軍手をしていないと、せっかく梱包したのに運ぶ途中で滑り落ち、中の物を傷つけることになりますし、手を切ることもあります。紙を素手でさわると、切りキズがしやすいものです。

作業場所の床や壁を傷つけたり汚したりしないように敷くブルーシートを用意することは、場所を提供してくれた人への礼儀です。ブルーシートは必ず確保します。



(写真6) 長机にブルーシートをかぶせた作業台

作業終了後の清掃用具やゴミを出すためのポリ袋などが要ります。作業中に出たゴミは、できるだけ分別してポリ袋に入れられるよう多めに用意します。

## 5. ボランティアへの協力呼びかけ

日頃から防災活動に協力してくれるボランティアに、氏名や連絡先を登録してもらっておくことが大事です。市町村の市民活動支援部署や、社会福祉協議会などに連絡し、それらの団体に登録しているボランティアに呼びかけてもらいます。新聞社などに連絡して1週間程前にボランティア募集を記事にしてもらうことも考えられます。

### 事例 うるうるパック（巻末資料1）の準備作業

2011年5月に行った作業で、文房具セットを2000セット、弁当箱セットを1500セットつくりました。後者では、男子児童と女子児童で弁当箱の大きさや色、柄を変えました。小学校低学年と高学年、中学生では、傘の大きさも変える必要がありました。男子児童用の弁当箱が女子児童に間違っ配られる（その逆の場合もある）ことのないように、前日の準備作業で弁当箱を作業グループごとに分けておきました。これにより間違いは防ぐことができました。この間違いは、当日作業をしてくれる人の注意だけで防ぐことはできません。前日の準備作業が重要だということがわかります。

色、柄、大きさに違いがあることは、不足分を購入する際、仙台市の卸商の担当者より、細かく教えてもらいました。

#### ① 文房具セット（2000セット作成）



- ・ノート
- ・鉛筆
- ・定規
- ・消しゴム
- ・鉛筆削り
- ・ボールペン
- ・メッセージカード



#### ② 弁当箱セット（1500セット作成）



- ・折りたたみ傘
- ・水筒
- ・収納袋
- ・ペン
- ・メッセージカード
- ・菓子



（写真7, 8）前日の準備で仕分けた物資

## 第四章 セット作業に取り掛かる

---

### 1. 作業場所への搬入と作業予定に従った商品の整理

---

本作業に備え、作業場の用意をします。セット作業と参加するボランティアの人数をもとに作業ラインの構成を考えます。提供者から届けられた物資の受け取りをします。ライン数や予定セットの種類、数量をもとに物資を整理します。台車、作業用消耗品（テープ、サインペン、はさみなど）の用意をします。清掃用具やブルーシートの用意も忘れてはいけません。参加してくれるボランティアが登録済みであれば役割を決めておき、当日受付と同時にその役割を告げられるようにします。作業ライン（グループ）が2つ以上になる時は必ず各ライン（グループ）のリーダーを決めておきます。

---

### 2. 当日の作業

---

#### ① ボランティアの受付と役目の割り振り

ボランティアを受け付けます。フォークリフトなどの操作は普段から扱いに慣れている人に頼みます。

全体の作業をいくつかの流れに分割し、それぞれをグループ化し、リーダーを決め、全員にその役割を説明します。リーダーには作業進捗をコントロールしてもらいます。グループ間で進捗のバランスが崩れた場合には作業の量を調整しますが、必ずリーダーを通して行います。



(写真9) 当日のボランティア作業の説明

#### ② 作業場所

会議室のテーブルなどを作業台として使用する場合はテーブルに傷をつけないようブルーシートで覆ってから作業をします。作業台の高さに注意が必要です。適切な高さでない場合、疲れやすいうえに腰痛になる場合もあります。

### ③ 間違いをなくすために

作り上げるセット数の分だけセットに入れる物を用意します。つまり予定セット分が出来上がれば用意した物はなくなっているはずですが、0個になったことを確認してダンボールにテープで封をします。

1000個のセットを作る場合、一度に1000セットを作らないようにします。100セットごとに数量違いなどのミスがないことを確認し、ミスがなければ次の100セットを作るのです。

表示も重要です。最終梱包した物資（ダンボール）を積み上げて中にある物がわかるように品名や数量をダンボールのサイド4面（場合によれば上面にも、つまり5面）に記載します。



(写真10) セットの必要数だけ各物資の数をそろえます

### ④ 段ボールへの詰め方

物資を配布する時、被災地で手間をかけることがない状態、つまりそのまま配ることができる状態にします。

例えば100人の生徒(54人のクラスと46人のクラスで合計100人)に1人1セットを配ることとし、1箱に10セットを入れると、ちょうどうまく収まる場合を想定します。この場合、54人のクラスには10セット入り5箱と4セット入り1箱、46人のクラスには10セット入り4箱と6セット入り1箱となります。10セット入り10箱を作ってはいけません。ダンボールは11個が必要です。

### ⑤ 置き場所の確保

出来上がったセットの置き場がない場合は、屋外にブルーシートを敷き、その上に一時保管することを検討します。不要となったダンボールはたたんでブルーシートの上に積み上げます。作業場が狭い場合に作業場内にこれらを置いておくとケガや間違いのもとになります。なお、屋外を利用するときは天候に注意する必要があります。

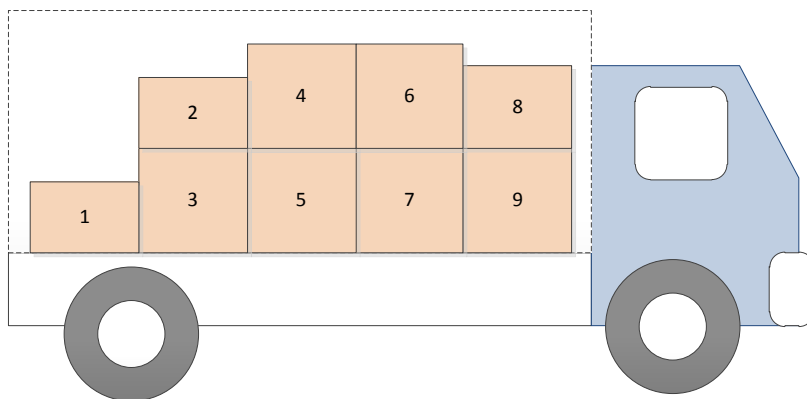


(写真 11) セットを入れた段ボールは天候がよければ屋外に仮置きします

## ⑥ 積み込み

トラックに積み込む場合、配達順序を考えて積み込みます。(先積み後降ろし)

例えば9ヶ所の避難所に、セット化した物を1番の避難所から避難所番号の順に届ける場合、出来上がった物を積み込む順序は、その反対の順番で積み込みます。つまり9番の避難所の分を最初に積み込みます。積み込み作業をする時に、配達順序がわかっていないと現地についてから混乱します。



(図 2) 配達する順番が後になる荷物を先に積み込む

## 第五章 後かたづけも忘れずに

後かたづけはセット作業と同時進行で行います。これを担当する人をあらかじめ決めておきます。具体的には余った物や道具を片付け、作業台を撤去し、床などを清掃します。不要となった物はポリ袋に入れるなどして指定場所に集めます。用意する物は掃除のために掃除機やバケツ・雑巾、ポリ袋などです。これらは前日の作業の中で確認しておきます。ポリ袋は作業場所の市町村の分別基準に応じて用意します。



(写真 12) 片付けの担当者もあらかじめ決めておくとい

さらに付け加えれば、支援物資を梱包した段ボール類は、送り先の被災地で大量のごみになる可能性もあります。できれば事前に現地の事情を確認して、被災者が処理に困らないように配慮し、場合によっては回収や一時保管する手段も考えましょう。

## 第六章 支援物資を発送する

配布する現地でのコミュニケーション活動に合致する輸送方法を選択します。

輸送方法は、専門の業者に頼むか、自分達で運ぶかの2つの方法があります。前者では宅配便の会社に頼むのが一番簡単ですが、箱の数が多いと費用が高くなります。箱の数が多い場合、トラックをチャーター（貸切）して運ぶのが確実ですが、出荷翌日には必ず現地で引き取る体制が必要です。もし、その間に1日か2日余裕を置く必要がある時は、JRの貨物コンテナを利用すると便利です。また運ぶ箱の数が50箱程度であれば、路線便を利用する方法もあります。運送の費用が安くなります。

運ぶ手段は、目的に合わせ色々な方法が選べますが、難しい点でもあります。困った時はRSYまで問い合わせ下さい。

### ① トラックによるチャーター輸送

**事例** 2011年5月のうるうるパック（巻末資料1）では、延べ約300人のボランティアの参加を得てセットアップした約2000人分の支援物資を、トラックで宮城県七ヶ浜町に運び、町の小中学校5校を回り、校長先生らに渡しました。校門から4トントラックが入るのが難しい学校があったり、校内の樹木の枝がトラックにひっかかたりする苦労もありました。



（写真13）各小中学校ごとに段ボールを分けてトラック積み込み

### ② 貨物コンテナによる輸送

**事例** 2011年12月のうるうるパックでは、名古屋のボランティアが地元の婦人会の女性らの案内で、仮設住宅以外の親戚宅などで避難生活が続いている在宅避難者の元にパックを届けました。届ける日が火曜と決まっていたので、前の週の金曜に物資をセットアップし、JRコンテナを利用して月曜に七ヶ浜町に着くようにしました。





(写真 14) 貨物コンテナも利用すると低コストで効率的

### ③ 自分たちで搬送、配布

**事例** 2011年12月の2回目のうるうるパック配送では、名古屋でのセットアップ後、マイクロバスに積み込み、ボランティアと一緒に七ヶ浜まで運びました。現地の民生委員の女性たちに同行してもらい、在宅避難者を一軒一軒訪問、物資をお渡ししかたがた近況をうかがいました。民生委員からは、物資を届けることが在宅被災者とのコミュニケーションをとる良い機会になったという感想をもらいました。



(写真 15) 物資を届けることが在宅避難者の状況把握にもつながります

## 第七章 セット化が難しい場合の工夫

このマニュアルは、避難所で生活する人や仮設住宅入居者が同じように必要とする物資を対象にしています。しかし物資の提供を受けた場合、必ずしもこの段階で想定しているセット化に適しない場合もあります。その場合でも工夫によってそれらを活かすことができます。

### 事例 職員室用文具セット

愛知県内の大手企業が社員に呼びかけ、文房具を集め提供してくれました。その種類や数量はさまざまでしたが、チョークやバインダーなどの大人向けの事務用品もあったため、2011年5月のうるうパックでは各学校の先生がたに使用してもらった職員室文具セットをつくり、届けました。後日確認したところ、先生がたは必要になったときにセットの中から必要とする物を選んで使っているということでした。先生も被災者です。



(写真16) 大人向けの文房具、事務用品は教員に向けてセットした

### 事例 みんなで抽選会

岩手県宮古市の宮古小学校では、くじびきで支援物資として届いたゴム手袋や長靴をわけた。ゴム手袋10セット、長靴30セットを約50人に。「抽選会」は避難生活に少しでも余裕が作れればと、支援に来た県内の教師たちが企画した。(2011年3月24日付朝日新聞記事から)

## 第八章 個別ニーズに対応した物資の支援

避難所生活にもそれなりにリズムができてくると、避難所生活とはいえ、必要とする物が多様化してきますし、仮設住宅に入居し、日常生活が始まると必要とする物が多様化してきます。この時期には、支援する人と支援を受ける人の1対1の関係で物資を届けることが、必要になります。また、この頃には宅配便や郵便なども復旧し、それらを利用することで、簡単に物が届けられるようになってきます。

**事例** 仙台に本拠地をおくNPO法人「ワンファミリー仙台」は、送られてくる物資をいったん自分達で用意した倉庫に入れ、ボランティアが避難所を回って避難所生活が長くなった個々の被災者のニーズを把握し、その翌日に保管してある物資の中から該当する物を取り出し配りました。

**事例** 3月11日の東日本大震災を機に、インターネットなどを利用した個別マッチングによる物資支援の仕組みが数多く立ち上がりました（ふんばろう東日本支援プロジェクトなど）。個別マッチングの場合、宅配便や郵便を利用すればネット上でのマッチングの仕組みがキーになり、セット作業のような大きな作業は必要なくなります。

### 事例 「お歳暮」プロジェクト

うるうるパック（巻末資料1）では2011年5月の子ども向けプロジェクト後、秋ごろまでにさらに集まった物資を「お歳暮」として届けるプロジェクトに着手しました。

被災者のニーズや生活状況が多様化してきているため、ファミリー、キッズ、ガールズ、レディース、シニアの5種類のパックを「カタログ」にして被災者に示し、個別の注文に応じてセット化。七ヶ浜の被災者をはじめ、東北から愛知県内に避難している県外避難者や、夏の台風災害に遭った三重県紀宝町の被災者にもカタログを配り、計800件の注文をいただきました。

**2011 お歳暮 カタログギフト**

**Family pack** うれしい日用品がぎっしりです

**A ファミリー・パック** ご家族 0円

様々な生活を取り戻すために欠かせない日用品や消耗品を中心に詰め合わせます。ご家族単位でもお一人様でもご注文いただけます。

<パック内容>

- ・各種洗剤
- ・ボディソープ
- ・専用シャンプー
- ・はみがき
- ・ポケットティッシュ
- ・綿棒
- ・折りたたみ傘（男女用1本ずつ）

**D レディース・パック** 女性 0円

**Ladies pack**

女性のためにリッチなヘアケア用品などを取りそろえます。

<パック内容>

- ・シャンプー
- ・リンス
- ・トリートメント
- ・ヘアスプレー
- ・ヘアオイル
- ・髪汗剤
- ・ナプキン

**E シニア・パック** 中高年 0円

**Senior pack**

中高年のためにふさわしいものを選びます。靴は単品でもご注文いただけます。

<パック内容>

- ・高齢者用オムツ
- ・パジャマ

**E-1** 紳士靴 黒・白もなし

**E-2** 婦人靴 ベージュ

※商品の種類や数に限りがあり、必ずしもご希望に添えない場合がございますので、ご了承ください。

※商品の種類や数に限りがあり、必ずしもご希望に添えない場合がございますので、ご了承ください。

**FREE** すべて無料です

（写真 17）2011 年末に作成した「お歳暮」カタログ

## おわりに

このマニュアルを作成するに当たり、3月11日以降持続的に支援活動を行っているNGO・NPOや、支援物資調達に協力してくださった団体・会社、また支援物資を配るのに同行してくださった宮城県七ヶ浜町の皆さん、さらには支援物資を受け取った被災者や学校を訪ね、支援物資に関して直接お話を聞きました。

いろいろなお話を聞き進むにつれ、災害が起きてから支援物資を手配するのではなく、災害が発生したときに備えて用意しておく支援物資があるのではないかと思うようになりました。

どのような災害であれ、避難所生活を強いられる被災者にとって必ず必要になる物資があります。それらはどのような災害であってもほぼ同じです。被災者のニーズの調査は重要ですが、関係者のすべてが猫の手も借りたいほどに忙しいとき、すべてのニーズ調査をすることが難しいときもあります。そうしたときのために事前に用意しておくべき物資セットを「定番セット」と呼びます。

具体的には次のようなものが考えられます。

① **文房具セット** 被災した児童、生徒が登校できるようになったときに提供する。鉛筆、ノート、消しゴム、鉛筆ケース、ボールペン、下敷き、定規などのセット。

② **幼児セット** 考え方は文房具セットと同じです。園児を対象にしたセットです。

③ **仮設住宅入居者向けセット** 避難所から仮設住宅に移り生活を開始する場合、必要になる日用品を提供します。例えば石鹸、箸、茶碗、湯呑、やかん、洗面器、タオルなどです。赤十字その他の組織からの提供（仮設住宅向け家電6点セット＝テレビ、冷蔵庫、炊飯器、電子レンジ、ポット、洗濯機）もあるのでそれらと重ならないようにしなければなりません。

宮城県七ヶ浜町の被災者との懇談会で次のような話を聞きました。

「仮設住宅に入居すると、間もなくあるグループが医薬品の入った救急箱を届けてくれた。しばらくすると同じ物を別の人が配ってくれた。その後また同じような救急箱が届いた」

届けてくれる方（会社・グループ）の気持ちは貴重です。こういう気持ちを上手に生かしていく仕組みが必要です。

定番セットはニーズ調査をするまでもありません。一方で被災者の手に渡るタイミングが重要です。物資保管場所が充分にあれば、将来の使用を想定してあらかじめ物資の提供を受け、セット化して保管することでタイミングよく届けることができます。入学式、新学期、仮設住宅への移動などはあらかじめスケジュールがわかるので、そのタイミングに合わせることは難しくありません。

一番の問題は常設の倉庫をどのように確保するかです。

福島県から避難した方は「仮設住宅に入居できた時、まずほしかったのは情報を入手するラジオかテレビ」だったそうです。その後、ある団体からテレビをいただいたが「中古で良いから入居したらまずラジオがほしかった」。

セット作業について専門家がアドバイス等のお手伝いをしますので アドバイスが必要な時はRSYまでご連絡下さい。

# 巻末資料

## 資料1 うるうるパック

R S Yをはじめ企業、N P O、社会福祉協議会、共同募金会等により構成されるネットワーク組織「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（通称・支援P、<http://www.shien-p-saigai.org/>）」は、企業から無償で提供された支援物資をできるだけ被災者の方のニーズに合わせ「パック化」して送り届ける活動をしています。皆さんに“うるうる”と喜んでいただきたいため、「うるうるパック」と名付けています。

東日本大震災では、主に子どもたち向けの学用品などを名古屋市内でボランティアらが袋詰めしたうえで、当法人が支援を続けている宮城県七ヶ浜町の小中学校に送り届ける一連のプログラム「うるうるパック from なごや」を企画しました。

企画段階で、七ヶ浜町の被災地では子どもたちの多くが弁当箱や靴、傘などの日用品にも事欠くことがわかりました。これらの一部を日本経済団体連合会1%クラブの関連企業からもらい受けたうえで、それでもなお発生する不足分は、被災地内の業者から購入することにしました。全国から集まった支援金をこのように活用することで、被災地の経済的復興にもひと役買おうという試みです。

震災発生後、経団連1%クラブを通じて弁当箱や靴の提供呼び掛け、不足分は「せんだい・みやぎNPOセンター」の紹介で仙台市のアールズ(株)、(株)奥田金物本店を通じて発注。愛知県を中心とした22企業・グループの関係者と一般ボランティアが2日間で延べ約250人が参加して、名古屋大学でセット化を行いました。作業は弁当箱などの日用品のパック詰めから開始。小学校低学年の男女用、高学年の男女用、中学校の男女用の計6つの「ライン」にわかれ、サイズやデザインを確認して、一つ一つ色柄の違う手作りバッグに詰め込みました。宮城県七ヶ浜町の小中学校全5校と幼稚園などに配布。七ヶ浜に運ばれたパックは、4月下旬に建設されたボランティア滞在拠点「日本財団ボランティアきずな館」に集められた長傘や長靴などと合わせて5月9日から10日にかけて、町教育委員会の同行の下、ボランティアの協力を得て町内の小学校3校、中学校2校や幼稚園などに配られました。

## 資料2 マズローの法則（欲求の5段階説）

人間はまず第1次の欲求によって動機づけられますが、それが適度に満たされてくると、より高次の第2次の欲求によって動機づけられます。更に第3次の欲求と続いて、これが人間のモチベーションの要因となります。この段階ではより低次の欲求はもはや動機づけの要因とはなりません。

下記の①→②→③→④→⑤の順番に進行します。

- ①生理的欲求（食欲・睡眠・性欲）
- ②安全性欲求（住居・衣服・貯金）
- ③社会的欲求（友情・協同・人間関係）
- ④自我の欲求（他人からの尊敬・評価される・昇進）
- ⑤自己実現欲求（潜在的能力を最大限発揮して思うがままに動かす）

## 資料3 提供支援物資リストの様式

物資の提供を受ける場合、事前に物資に関する情報を得る必要があります。次ページはその場合のリストの書式です。

# 提供支援物資一覧

見本

提供企業名  
 担当部署  
 担当者  
 電話番号  
 携帯電話番号  
 電子メールアドレス

提供品

品名	品番	商品 サイズcm	重量g	外装ダンボール 1箱の商品入数	ダンボールサイズ	重量	提供数量 商品数	ダンボール数

品名 提供企業が使っている商品名 (外装ダンボールに記載してある品名)

品番 提供企業が使っている商品コード (外装ダンボールに記載してあるコード)

商品サイズ その靴1足が入れる箱のサイズ

商品重量 その靴1足が入れる箱の重量

入数 その外装ダンボール1箱の商品がいくつ入っているか

提供数量 商品数を割り算すればダンボール数に一般的にはなります

しかし何らかの理由で端数がある時は上記数字は一致しません

\* 単位は商品により変わります。

\* 単位は商品により変わります。

例

品名	品番	商品 サイズcm	重量g	外装ダンボール 1箱の商品入数	ダンボールサイズ cm	重量kg	提供数量 商品数	ダンボール数
ペット飲料	レモンテイ	1212 6×6×21	500	24	24×30×21	12	2400	100
	リンゴ紅茶	1234 6×6×21	500	24	24×30×21	12	4800	200
	無糖紅茶	1345 6×6×21	500	24	24×30×21	12	4800	200
	キャラメル紅茶	1357 6×6×21	500	24	24×30×21	12	4812	201

701

縦×横×高さ  
 L W H

これにより 701ケース分の箱の置き場所が必要になります。

5段重ねの場合

1箱は (24×30) つまり おおよそ0.072㎡の場所が必要です

5段重ねにすると 0.072× (701÷5) つまり10㎡くらい必要です

12本の端数入りが1箱ある



## 支援物資セット化マニュアル

－被災者とモノを通じてココロを通わせる方法－

初版：2012年5月23日

発行者：特定非営利活動法人レスキューストックヤード  
〒461-0001 名古屋市東区泉1-13-34 名建協2階  
TEL 052-253-7550 FAX 052-253-7552  
E-mail info@rsy-nagoya.com

ホームページ (<http://rsy-nagoya.com/>) にて本マニュアルのPDF版がダウンロードできます。

協力：ピーアイ物流・伊藤秀行、名古屋工業大学大学院教授・秀島栄三、同助教・ウィスニー・ウィセットジンダワット